守山の２小　運動会、人間起こし中止　組み体操　保護者「説明が不十分」

京都新聞　2024 年 10 月 19 日　朝刊　22 ページ

守山市の守山小で、11 月の運動会へ練習していた組み体操の「人間起こし」を実施しないことを急きょ決めたことが 18 日、同小や市教委への取材で分かった。同小は「保護者への十分な説明ができていなかった」として、この日の組み体操の練習を中止したが、人間起こしを取りやめたことへの説明はなく、保護者から疑問の声が上がる。

人間起こしは、数人の土台の上に 1 人が立ち、後ろに倒れるのを受け止めて投げるように起こす技。市教委などによると、同小では今年の運動会の組み体操で新たに人間起こしをすることにした。1 週間前から練習を始めたが、保護者から「（組み体操が）心配で、説明がほしい」と問い合わせがあったという。

市教委と同小で協議した結果、保護者から心配の声が上がっていたとして、人間起こしを行わないことにし、市内の物部小でも中止を決めた。

守山小では、保護者への十分な説明がされていなかったとして組み体操の練習を中止。安全に配慮し、運動会では人間起こしを除いた組み体操を行うという。同小の大島淳史教頭は「不安な思いをさせて申し訳ない」と述べた。

人間起こしの事故件数を調べた大阪経済大の西山豊名誉教授によると、全国で 2016 年から 18 年までの 3 年間で 145 件あり、危険性が指摘されている。脳振とうや打撲など頭部のけがが最多だった。西山名誉教授は「一番の危険性はあおむけに倒れること。頭を打って重い後遺症につながる恐れもあった」と警鐘を鳴らす。

一方で京都新聞社が入手した同小が 18 日に保護者向けに出した文書によると、「安全に十分留意して進める」としたが、「人間起こし」の取りやめについては記述が一切無かった。保護者の一人は「子どもが危険やリスクにさらされたということを認めて、きちんと説明してほしい」と話している。

（飯嵩将太）